

日本天文学会・会員全体集会（2025年9月10日）

26期日本学術会議・分科会報告

（1）日本学術会議法案のあり方に関する状況

（2）IAU分科会報告

（3）天文学・宇宙物理学分科会報告

(1) 日本学術会議のあり方に関する状況

◆ 2025年4月日本学術会議総会(第194回)

- 「日本学術会議法案の修正について」(決議) <https://www.scj.go.jp/ja/head/pdf/20250415.pdf>
- 声明「次世代につなぐ日本学術会議の継続と発展に向けて～政府による日本学術会議法案の国会提出にあたって」(令和7年4月15日)

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-26-s194-s.pdf>

◆ 提出された法案と国会での審議状況

- 法案の審議状況と新法案での主な変更点
- 付帯決議・・・衆議院で11項目、参議院で14項目。会員任命拒否問題の説明責任、日本学術会議の独立性、自主性及び自律性の尊重を含む政府へ向けたもの。学術会議へ向けたものは衆議院・参議院で各1項目(組織や活動の透明性の向上と、政府とともにその責任と役割を果たす)。

◆ 法案成立後の状況

- 会長談話「日本学術会議法案の成立を受けて

<https://www.scj.go.jp/ja/head/pdf/20250612.pdf>

- 今後の進め方について

法案の審議状況

2025年

- 4月14～15日 第194回総会(声明及び決議の採択)
- 4月18日 衆議院本会議(坂井大臣による法案趣旨説明・質疑)
- 4月25日 衆議院内閣委員会(趣旨説明、政府質疑)
- 5月7日 衆議院内閣委員会(参考人質疑・政府質疑)
- 5月9日 衆議院内閣委員会(政府質疑、討論・採決、附帯決議)
- 5月10日 **衆議院本会議**(討論・採決)
- 5月28日 参議院本会議(坂井大臣による法案趣旨説明・質疑)
- 5月29日 参議院内閣委員会(趣旨説明、政府質疑)
- 6月3日 参議院内閣委員会(参考人質疑)
- 6月5日 参議院内閣委員会(政府質疑)
- 6月10日 参議院内閣委員会(政府質疑、討論・採決、附帯決議)
- 6月11日 **参議院本会議**(討論・採決)
- 6月12日 石破総理大臣への共同声明手交
会長談話「日本学術会議法案の成立を受けて」公表

(2025年5月9日衆議院内閣委員会)

※国会日程のうち下線は光石会長出席

新法案での主な変更点

6月第三部拡大役員会資料より
(部長作成)

	これまで	これから
位置づけ	国の特別機関	特別の法律により設立される法人（特殊法人）
目的	科学者の代表機関として、科学の向上発達を図り、行政、産業や国民生活に科学を反映浸透させる	科学者の内外に対する代表機関として、学術の向上発達を図るとともに、社会の課題の解決に寄与する
会員数	210人	250人
部	第一部、第二部、第三部の定義を法制	記述なし
任期	6年、再任なし、満70歳誕生日末で退職	6年、1回に限り再任可、満75歳9月で退職
会長	会務を総理し、日本学術会議を代表する	特に優れた研究又は業績があり、人格が高潔で、会議の業務を適切かつ効果的に運営できる能力を有する会員
会員	優れた研究又は業績がある科学者、非常勤公務員	優れた研究又は業績がある科学者、みなし公務員
連携会員	優れた研究又は業績がある科学者から会長が任命	(会員以外の者が弾力的に活動に参加し会員に協力する仕組みに変更)
会員の選考	現行の会員が新たな会員の候補者を推薦して内閣総理大臣が任命	学術会議自身が会員を選任。外部の科学者からなる「選定助言委員会」が会員選考について意見を述べる
評価と運営		業務を監査する「監事」や、学術会議自身の自己点検評価に意見を述べる「評価委員会」を総理大臣が任命。
(執行部)	幹事会（会長、副会長、部長、副部長、幹事）	役員会（役員＝会長、副会長）+会長指名会員
財源	日本学術会議に関する経費は、国庫の負担とする	必要と認める金額を補助することができる

会長談話「日本学術会議法案の成立を受けて」(tennet : 2483)

日本学術会議の法人化を内容とする、政府提出の「日本学術会議法案」については、6月11日の参議院本会議において可決され、成立しました。

.....

法案が成立した今、日本学術会議もまた独立性、自主性、自律性を確保しながらナショナルアカデミーとしての役割を發揮していくためになすべきことをなさねばなりません。声明では、76年の歴史を有し世界の学界と連携して学術の進歩に貢献してきた日本学術会議が、これまで引き継ぎ、そして発展させてきた理念や使命が変わらず存続するよう、我々科学者自身で確認し、国民、社会に向けて誓約する必要があることを述べました。それに加え、これからも学術の振興を通じて文化を育み、平和で豊かな社会を作り、安心して生き甲斐があり、健康で文化的な国民生活の維持増進に貢献していくことを、新たな日本学術会議法が成立した今、改めて表明いたします。

そのために、新たな法律の下での日本学術会議のさらなる発展に向けて、日本学術会議においても準備、検討を開始いたします。そして、日本学術会議が自ら主導することで、日本学術会議の継続性を確保し国民や社会の期待に応える制度設計を進めてまいります。また、準備に際しては、政府とのコミュニケーションを図ってまいります。

最後に、今次の日本学術会議のあり方に関する議論を糧として、組織改革だけでなく、世界及び国内の社会課題の解決に寄与しつつ、学術の更なる発展のために自ら行動し、「日本学術会議のより良い役割發揮に向けて」及び「日本学術会議第26期アクションプラン」による自らのさらなる改革を進め、次世代へと引き継ぐことを国民、社会に対し約束するという我々の宣言に従って、今後、活動を進めてまいります。

今後の進め方について

1. 会員による組織体制の検討

- 法人発足時の会員選考に関する検討(⇒候補者選考委員会)
- 組織体制(連携会員制度含む)・ガバナンス、基本的なルール(会則等)の検討(委員会の設置)
- 会員選考制度(法人発足後)(分科会の設置)、会長選考制度の検討
- 自己資金に関する方策・ルールの検討(WGの設置)
- 日本学術会議憲章の改訂に向けた検討(分科会の設置)

➡ 執行部を中心に検討体制(委員会等)を調整し順次立ち上げ(2025/7~)

2. 事務局において執行部等と相談しつつ検討

- 予算要求(上記の検討内容及びアクションプラン企画WGの検討内容等を踏まえつつ検討)
- 職員人事(専門人材の雇用含む)、報酬・給与、労務、法務、知財など諸規程の検討
- 情報システムの構築・移行 等

3. アクションプラン企画WGや委員会・分科会の活動

- 2026年9月まで着実に実施



(2)

IAU分科会 報告

■ IAU分科会 2025年7月29日(火) 第5回

➤ (1) 活動報告

- アルバニアのオブザーバー加盟について賛成投票
- 第32回 IAU総会 Final Report が完成
- APRIM 2026 @香港 2026年5月4－8日に決定
- 2026年度 IAUシンポジウム採択結果 9件(うち1件は国立天文台・三鷹で開催予定)
- 2024年 IAU PhD Prize 日本の受賞者なし(お願いあり)
- IAU WEBサイトの更新と新システムについて(お願いあり)

➤ (2) その他

- NAEC 日本チーム報告
- 「天文学と社会」連絡会について
- ”100 Hours of Astronomy” Celebrating 100 Years of the Planetarium について



IAU分科会 からの4つのお願い

■ IAU シンポジウム申請

➤ Lol 9/15 本申請 12/15 〆切

■ 会員（個人、ジュニアとも）入会申請

➤ 10月頃 募集開始、応募サイトオープン 12/15 〆切
・ 学位取得後5年以上が目処、満たない方はジュニア会員へ申請を

■ PhD Prize へ積極的に応募を！

➤ 応募手続きは会員入会申請とほぼ同時期 〆切

■ IAU Web更新に伴い個人会員の情報更新手続きを

➤ 全員必須！ TENNET [2742]メールを参照

(3) 天文学・宇宙物理学分科会報告

天文学・宇宙物理学分科会 2025年7月29日(火) 第5回

◆「未来の学術振興構想(改訂版)」

- オンライン説明会(5/27)などで趣旨説明と応募の推奨
- 8/1の意向表明、10/1の応募締切に向けた対応(提案者など)

◆天文学・宇宙物理学分野の将来計画の推進について

- 分科会として独自に、天文学・宇宙物理学分野を俯瞰した観点で議論
- 「未来の学術振興構想(改訂版)」に応募の計画を対象に、各コミュニティ及び機関の議論をオーサライズした上で、時間・規模・手法を俯瞰した視点から、分野として推進すべき計画をまとめる

「未来の学術振興構想（改訂版）」

「未来の学術振興構想」は、我が国の大型研究計画のあり方に一定の指針を与えてきたマスタープランに代わり、以下の方針で学術会議25期の提言として2023年9月に発出された。

* 「**中長期的視点と俯瞰的視野と分野横断的な検討**」により、我が国の科学者コミュニティとしての考え方を取りまとめて明らかにする。

* **今後20～30年頃まで先を見通した学術振興の19の「グランドビジョン」**を提示。

* それぞれの「グランドビジョン」について、その実現の観点から必要となる「**学術の中長期研究戦略**」（今後20～30年頃まで先を見通した学術振興の「**ビジョン**」とその実現に必要な「**学術研究構想**」）を示した。

* 19の「グランドビジョン」は、**多様な科学者コミュニティから提案された将来振興すべき学術の「ビジョン」**を取りまとめたものであり、**社会からの要請を念頭に科学者の自由な発想に基づいていることが大きな特徴**の一つであり、かつ、重要な点である。

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-25-t353-3.html>

* 前期の提言の発出から間もないことから**26期は大幅な見直しはせず**、19の「グランドビジョン」の実現及びより一層の充実のために必要な「**学術の中長期研究戦略**」を追加募集するとともに、「**未来の学術振興構想**」に掲載した「**学術の中長期研究戦略**」の「**学術研究構想**」の進展等に伴う改訂を実施。

（改訂方針 1. 背景と目的 より）

<https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/kenkyukeikaku/26koubo.html>

天文学・宇宙物理学分野の将来計画の推進について

－26期天文学・宇宙物理学分科会における**将来計画検討**へのご協力をお願い

●天文学・宇宙物理学分科会では、26期未来の学術振興構想にご応募いただいた将来計画と各コミュニティや機関での議論を踏まえ、**分科会として独自に**、天文学・宇宙物理学を俯瞰した観点で「分野全体の発展に資する将来計画」を議論致します。

- ✓ つきましては、**天文学・宇宙物理学の将来計画を推進する皆様**におかれましては、**26期未来の学術振興構想にご応募**いただき、**ご応募いただいた提案書の写しを分科会にご提出**お願い致します。（提出先は9月中にお知らせ致します。）
- ✓ 将来計画の議論に向けて、**コミュニティ代表者の皆様、機関代表者の皆様**に、**将来計画及びその検討（推薦）結果の分科会へのインプットのご協力**をお願いします。（次ページの図参照：2026年1月の予定）

「未来の学術振興構想（改訂版）」と分科会での 将来計画検討に向けた流れ

